



因伯之果樹 当社バイオスティミュラント掲載のこと

JA 全農とっとり様の機関紙「因伯之果樹」において、当社のバイオスティミュラント製品「ギガフォル」の委託試験内容が紹介されました。本記事は、鳥取大学農学部生命環境農学科 園芸生産学研究室の竹村准教授によって執筆されました。

竹村准教授には 2 年間にわたり、「ギガフォル」の日本梨への効果検証を実施していただきました。本記事において、日本梨「王秋」における猛暑傾向時のコルク障害発生が軽減できる可能性について記述されています。

当社では、引き続き生産現場の課題やお悩みを解決するため、多様な場面でお役立ていただけるバイオスティミュラント製品を揃え、ご提案してまいります。



バイオスティミュラント専用サイト : [MABooST 公式](#)

「研究内容」

次に、現在、我々の研究室で行っている研究内容の一部を紹介させていただくこととする。大きなテーマとしては、ニホンナシの「①休眠」、「②開花・結実」、「③果実品質」である。「①休眠」については、今後の温暖化進行を想定しての新品種の育成と栽培適地の評価である。「②開花・結実」については、新たな受粉樹の選抜や育種、花粉発芽のメカニズム解明等である。さらに、現在行っているスマート農業のプロジェクトでは、花粉採取適期をAIで判定する技術開発も進めており、ナシ以外の複数樹種も研究対象としている。

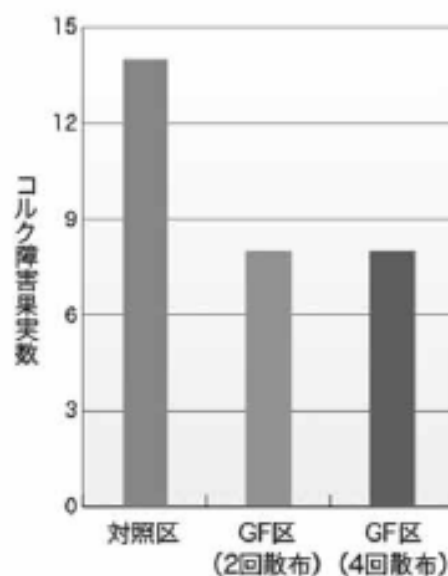
これらについては、これまでの講演等で紹介してきたこともあったので、ここでは③の中の一つである「王秋」の「コルク状果肉障害の軽減技術」に関し

て報告させていただく。特に、猛暑が続いた昨年度は鳥取県内でも被害が多かった本障害であるが、これを『バイオステイミュラント』と呼ばれる資材の散布で軽減する技術開発に取り組んでいる。この資材の散布による効果を検証するため、コルク状果肉障害の発生を助長する「遅めの摘果」と「ジベレリン処理」を行った樹に、7月下旬、8月上旬、8月下旬、9月上旬の計4回、ギガフォル【三井物産アグロビジネス】を散布した。その結果、ギガフォルを散布した処理区では対照区に比べ、若干ではあるが、コルク状果肉障害の発生が軽減されるという結果が得られた。散布した「ギガフォル」は、作物が環境に適應するために自ら作る適合溶質（グリシンベタイン、プロリン）と、作物の健全な生育を後押しする各種アミノ酸、ビタミン、キャリアタンパク質をより良いバラ

ンスで配合した資材である。特に高温・乾燥を中心とする幅広い環境ストレスに対し優れた効果が期待されており、上記の結果につながったものと推測されている。ただ、適切な処理時期や詳細な効果の検証等はこれからであるので、今後の結果がまとまり次第、追加での情報提供を行っていくこととする。

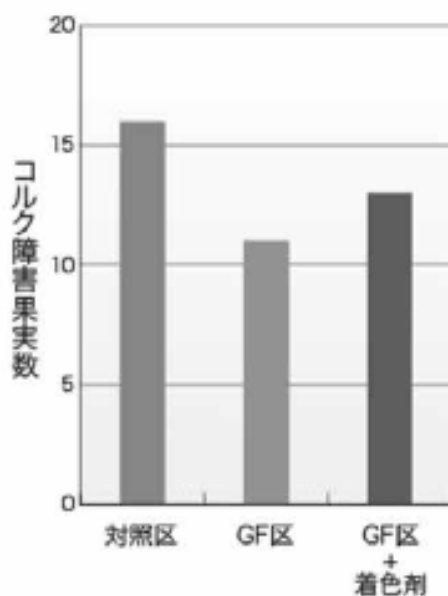
2020年度〈夏季高温・早魃条件〉

試験先	鳥取大学
品種	王秋
管理	予備摘果;5/26、GA処理;5/27、 本摘果;6/9、袋掛け;7/20
使用量	200ml/10a・回(500倍希釈)を 葉面散布
散布時期	7/20、8/6、8/20、9/9の4回
収穫	11/5
調査	11/6



2021年度〈夏季過湿・曇天・低日照条件〉

試験先	鳥取大学
品種	王秋
管理	予備摘果;5/26、GA処理;5/26、 本摘果;6/7、袋掛け;7/20
使用量	200ml/10a・回(500倍希釈)を 葉面散布
散布時期	7/19、8/3、8/19、9/9の4回
収穫	10/27
調査	11/10



- ①2カ年ともに、ギガフォル区にて、コルク障害果実数の減少傾向が見られた。
 ②共にGA処理の実施と本摘果を遅らせ、果実の急激な肥大を促している状況。
 ③上記②と高温・早魃、過湿・低日照条件の何れにおいて、対照区よりもコルク障害発生が軽減した。